

# 領域「表現」の授業のあり方(1)

## —音楽創作活動の導入—

木 下 由 香

(2020年2月28日受理)

# Ideal way of class in the Area of "Expression" (1)

## —Introduction of Music creation activities—

Yuka KINOSHITA

要旨：以前から主に鑑賞や表現活動が行われてきた音楽教育現場において、創作活動を積極的に行うことの意義を考察する。音楽科における創造性とは思考と試行の繰り返しであり、引いては教育で育みたい能力・資質「思考力・判断力・表現力」の育成につながると言える。また、音楽と美術には歴史的指導観の違いがあり、音楽では子どもの内側から沸き上がる衝動性や能動性に着目した活動が行われてこなかった。描写活動を組み合わせた音楽創作活動を実践したところ、多くの学生にその意図が理解された。

Key words：幼稚園教育要領 領域「表現」 音楽 美術 創造性

### 1. はじめに

新しい教職課程では幼稚園教諭免許状において「領域及び保育内容の指導法に関する科目」が創設された。その中に「領域に関する専門事項」と「保育内容の指導法（情報機器及び教材活用を含む）」が必要な事項として挙げられた。このようになった理由は、幼稚園教諭に求められる資質能力として、平成30年度実施幼稚園教育要領に示す5領域の教育内容に関する専門知識を備えた専門性と、5領域に示す教育内容を指導するために必要な力、具体的には、幼児を理解する力や指導計画を構想し実践していく力、様々な教材を必要に応じて工夫する力等の実践力の二つの側面が必要であるためと指摘されている<sup>1)</sup>。

本学の音楽系授業においては、「子どもと表現（音楽）」が新設された。「領域に関する専門事項」の考え方として、領域について、領域それぞれの学問的な背景や基盤となる考え方を学ぶことを基本としている。また、幼稚園教育において、「何をどのように指導するのか」という視点で見たときの「何を」を深める部分である。さらに授業担当者に求められ

ることは、「幼児」や「幼児期の教育」「幼稚園教育」について、よく理解していることは重要である。

さらに、幼稚園教育要領の「表現」に関するねらい、内容等は以下のように述べられている。

#### 表 現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

#### 1 ねらい

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

#### 2 内 容

- (1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。

- (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

### 3 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- (1) 豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。
- (2) 幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。
- (3) 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

新しい授業を行うにあたり、以上のことを念頭に置き、モデルカリキュラムを参考にしながら授業内容を考えた。

## 2. 問題の所在と目的

### (1) 音楽と美術の指導観

筆者は、以前より教育現場での音楽による創作活動の乏しさを感じていた。現職の保育者に行ったアンケートにおいて、音楽の創作活動が行われる頻度は低く、難しい、敷居が高いといった声が聞かれた<sup>2)</sup>。なぜ図工のボディペインティングに見られるような自由な創作活動が音楽にはないのか。その理由が杉本の先行研究に次のように書かれている。

小学校音楽科においては、昭和22年から平成20年に至るまで一貫して、教師主導型指導による楽譜を再現するためのさまざまな基礎的感覚や技能の育成が中心課題として継承されてきた。一方、小学校図工作科においては、一貫して、教師主導型指導による知識技能育成ではなく、子どもの内側から沸き上がる衝動や能動性が着目され継承されてきた<sup>3)</sup>。

図1に見られるように、歴史的に音楽と図工との指導観には違いがあり、それが70年以上も変化しておらず、つまり小学校学習指導要領及び幼稚園教育要領によって、創造性を育む教育が音楽においては軽視されてきた。

本来、感性は人間の本能的なものであり、幼児期にはそういった感覚の育成が重要となると筆者は考えている。感性とは、「1. 物事を心に深く感じ取る働き。感受性 2. 外界からの刺激を受け止める感覚的能力。カント哲学では、理性・悟性から区別され、外界から触発されるものを受け止めて悟性に認識の材料を与える能力。」と説明されている<sup>4)</sup>。幼児期においては、知識・技術を重きにおいた教育ではなく、子どもの内側から溢れる美的衝動に着目した図工の指導観が優先されるべきではないだろうか。そういう視点から、現在では図工作科における「感性を養う」教育を音楽教育においても取り入れる傾向が出てきた。

	分析の対象	音楽	絵画・造形
第1期	昭22 小学校要領試案	教師主導型指導 基礎的知識技能育成 音楽美	環境をつくる指導観 造形衝動
	昭23 保育要領	環境をつくる指導観 内的能動性 音楽美	環境をつくる指導観 内的能動性
第2期	昭33 改訂小学校指導要領	教師主導型指導 感覚技能育成 作品の美	造形的経験を通して 活動衝動
	昭39 改訂幼稚園教育要領	教師主導型指導 感覚技能育成 美消え楽しむ	造形的経験を通して 美的感覚
第3期	平20 改訂小学校指導要領	教師主導型指導 基礎的素養を前提とした感性	経験を通して 生来の感性を働かせる
	平20 改訂幼稚園教育要領	環境を通して 感性を養う 美消え楽しむ	環境を通して 感性を養う

図1 小学校学習指導要領及び幼稚園教育要領における音楽・絵画造形についての分析結果の概要<sup>3)</sup>

学習指導要領の中には、〈音楽的感性〉の獲得について言及されており、さらに〈音楽を形づくっている要素〉を児童が聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることが望まれている。音楽を通しての美意識の醸成とも言える。

これまでの音楽科教育において、楽譜を再現するための基礎的感覚や技能の育成が中心課題として継承されてきたのには理由があり、音楽の持つ音色、拍子、リズム、音の高低といった音楽を形づくっている要素を認知する能力は発達の段階を踏まないと獲得できないものと考えられていたからである。幼児教育の現場では音楽も図工も遊びとして捉えられ、教科として分化されるべきものではない。そこで、描写活動を組み合わせた音楽創作活動を実践することにした。

## (2) なぜ創造性が大切か？

幼稚園教育要領「表現」には「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と掲げられている。「創造的」とは、それまでになかった新しいものを、初めて作り出していく力があるさまであり、「創造性」とは創造的であること、何かの真似ではない、独自の有用な案を生み出すこと、また、その度合い、オリジナリティ、と定義され、これらを踏まえ大西・新山王は、教育における「創造性」とは生産と再生産の繰り返しであり、創造において重視すべきなのは、「過程」とであると述べている<sup>5)</sup>。何かを生み出す時、過程がなければ何も生まれない。創造においては、「ひらめき」が重要であると言われがちだが、そのひらめきも、無意識下での過程が存在していると考えている。

さらに、音楽科における創造性については「思考と試行の繰り返しである」と述べている(図2)。十分にインプットをしないとアウトプットや概念の理解ができない、ということも一般的に言われているが、本学のような短期大学では、効率よく学生に学習機会を提供することも大切である。そして、将来保育者となる学生自身が、創造的な表現活動の経験を積んでおくことが必要であると考えた。

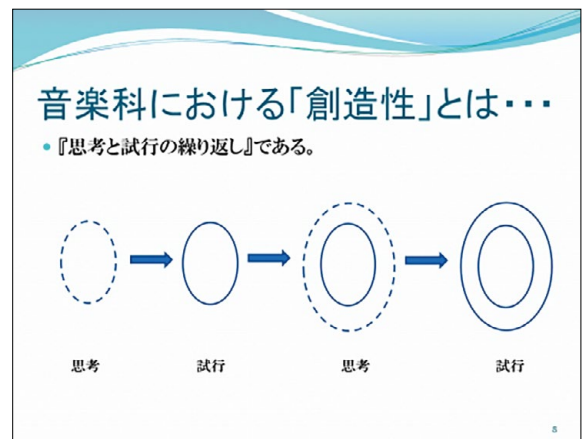


図2

## 3. 研究の内容および結果

倫理的配慮を口頭で説明した上で、下記のとおり授業を実施した。

- ・対象：保育者養成短期大学に在籍する学生99名(1年生)
- ・実施日：2019年11月、2020年1月

### (1) 絵かき歌を使ったふしづくりの例

これは「声と歌唱表現」の授業回で行った活動例である。子どもたちが保育の現場で耳にするわらべ

うたの旋律に注目した。わらべうたの特徴は、①主音から行きつ戻りつしながら順次進行する曲である、②旋律の音の動きがゆっくりである、③うまい下手は関係なく、動きを伴い楽しみながら歌える、④発音しやすい母音など、わかりやすい日本語である、⑤繰り返しが多く、旋律が覚えやすい、などが挙げられる。旋律は五音音階の2～4音を使用している。その特徴を生かした絵かき歌は、子どもたちも楽しんで取り組みやすい。授業では、「かわいいコックさん」などの絵かき歌を実践し、その後に学生向けに「漢字書き歌」の創作に取り組んでもらった。

わらべうたの旋律を使用するという制約を設けることで、誰でもふしづくりが行いやすいという利点

がある。その他、書き順はこだわらなくて良い、子どもに向けて発信する内容を考えるよう声掛けをした。その結果、図3・図4・図5・図6に見られるように、「はしご」「やね」「えんとつ」「こまったかお」「おへや」といった子どもにも伝わるような見立て言葉を用いて1フレーズ13音以内に綺麗にまとめて完成させていた。また中には「トンカチカンカンカンチャーン」「ポツポツ」といったオノマトペの使用も見られ子ども目線に立った作品になっていた。

## (2) 描写活動を取り入れたイメージ演奏の例

「イメージを音に表現する」の授業回で行った活動例である。事前学習において、「ころころころ」<sup>6)</sup>

漢字書き歌シート

学籍番号 〇〇〇 氏名 〇〇〇

① 月	② 月
はしごが かなた	やねが かなた
おへや	えんとつ
③ 月	④
トンカチ カンカンカンチャーン!	
あつとけいまに おひさま	
⑤	⑥

図3

漢字書き歌シート

学籍番号 〇〇〇 氏名 〇〇〇

① 一	② 一
えんとつ かいしん	やねが かいしん
あつとけい	えんとつ
③ 空	④ 空
こまった かお	えんとつ
おへや	えんとつ
⑤ 空	⑥
あつとけい	
えんとつ	

図5

漢字書き歌シート

学籍番号 〇〇〇 氏名 〇〇〇

① 口	② 口
はしごが かなた	やねが かなた
えんとつ	えんとつ
③ 谷	④ 谷
あつとけい	あつとけい
えんとつ	えんとつ
⑤	⑥

図4

漢字書き歌シート

学籍番号 〇〇〇 氏名 〇〇〇

① 二	② 二
えんとつ あつとけい	えんとつ あつとけい
えんとつ	えんとつ
③ 雨	④ 雨
あつとけい おへや	あつとけい おへや
えんとつ	えんとつ
⑤ 雨	⑥
あつとけい	
あつとけい	

図6

などの絵本や、ハンガリーの作曲家ジョルジュ・クルタークの『遊び [ピアノのために]』<sup>7)</sup>に見られる図形楽譜やクラスター奏法の紹介を行った。「天気を音に表そう」というテーマで、ポイントシール、カラーマジック、クレヨンなどで晴れ(図7)、雨

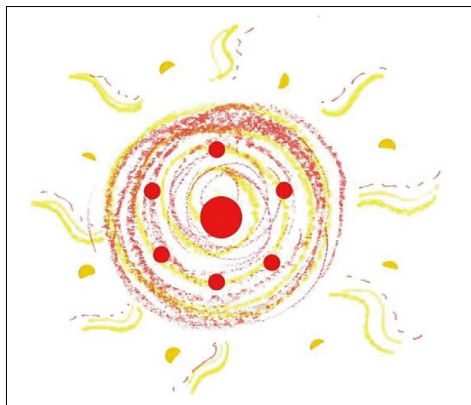


図7 「晴れ」

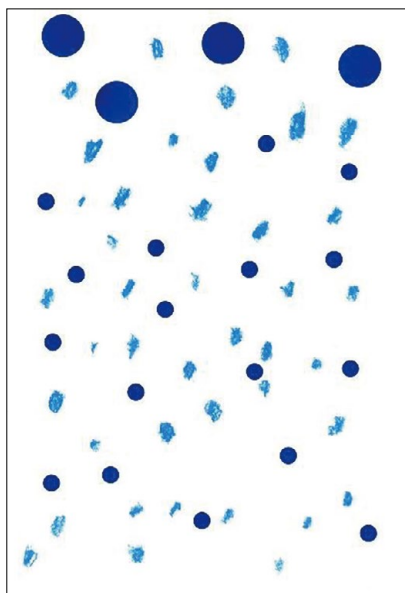


図8 「雨」

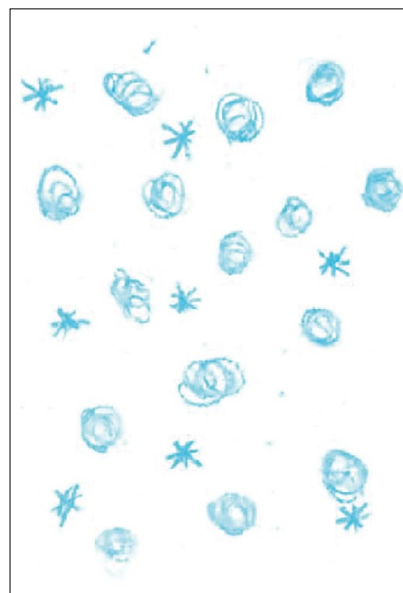


図10 「雪」

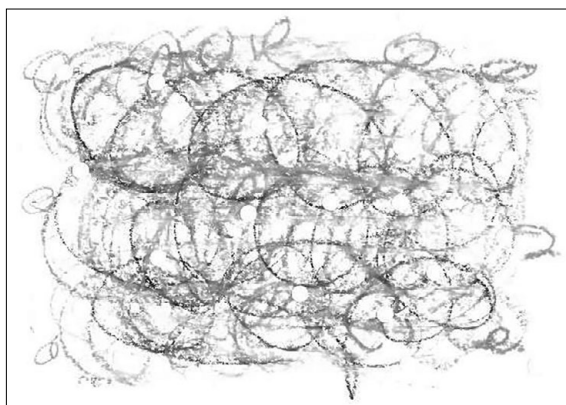


図9 「曇り」



図11 「雷」

(図8)、曇り(図9)、雪(図10)、雷(図11)のイメージ画を描き、描写された絵カードを見て、別の学生がピアノで演奏する、といった発表を行った。音と視覚的なものを結び付けて表現するという活動である。演奏の際に気づいたのは、図7の晴れのカードでは鍵盤の高音域でくすぐるような指の形をしてキラキラ光る太陽のイメージを表していた。図8の雨のカードではポイントシールの大きさの違いをピアノの音量の違いとして表現しながら、ランダムに音を鳴らし雨の降る様子を表していた。図9の曇りのカードでは、図13の①に見られるような雲行きが怪しい雰囲気の旋律を作っていた。図10の雪のカードでは、高音と弱音、スタッカートで雪の儚さを表現していた。図11の雷のカードではピカッと光る様子を高音で、その後に轟く雷鳴を鍵盤の低音部



を拳や手のひらで思い切り強音で鳴らしていた。

それぞれのカードの音楽が決まったところで、次は図12に見られるようにカードを並べた。「朝、①曇っていますが、その後②雷雨になるでしょう。夕方から③雪が降りますが夜には④晴れるでしょう。」というストーリーを設定し、その演奏を記譜したものが図13である。雷雨の時は、雷と雨の担当者が同時に演奏するというアイデアが学生から出された。

#### 4. 考 察

授業全体の振り返りで学生に質問を行ったところ、創造的な活動に関する質問に肯定的に回答した



図12



図13

学生の割合が以下になった。

- ・ わらべうたなど伝統的な遊びを積極的に取り入れた音楽活動を行う方がよいと思いますか？ 82名 (87.2%)
- ・ 保育の現場で行う音楽活動の中で、臨機応変に

対応できるための即興的な演奏能力が必要だと思いますか？ 75名 (79.8%)

- ・ クラスター奏法や図形楽譜、ポイントシールなどを用いた描写活動を組み合わせたイメージ創作活動は楽しかったですか？ 73名 (77.7%)
- ・ 絵かき歌を応用させた漢字書き歌の創作を通して、自由なふしづくりの創作活動であると理解できましたか？ 66名 (70.2%)

わらべうたの一種である絵かき歌は、多様な遊びの機能に関連し、中でも知的・創造的な能力の開発が期待される、と島崎は述べている<sup>8)</sup>。そして、音楽遊びとお絵かきが一体となった絵かき歌は、音楽と美術が統合された芸術的な要素をもつ子ども遊びの文化と言っても過言ではない。70%以上の学生が絵かき歌を応用した漢字書き歌や描写活動を組み合わせたイメージ創造活動を楽しんでいった。

さらに筆者は、保育者が就学後の音楽科の学習目標内容について知っておく必要があると考えている。シーショアが基本的感覚能力を①高さの感覚 ②強さの感覚 ③時間の感覚 ④音色の感覚の4つに分けている。これらを参考に井口は、幼児期が音楽の基礎的な感覚の獲得の上で重要な時期であり、例えば、みんなといっしょにうたう活動では音高感や速度感、さまざまな音との出会いや楽器の好みなどは音色感、リズムにのるようすから時間の感覚、合奏のときの楽器の音の大きさからの音量のバランスなどが具体的に評価されるものであろう、と述べている<sup>9)</sup>。こうした要素的・分析的な評価を心がけることは、次の活動や、それにふさわしい環境の構成を知るうえでの有力な手がかりとなる。色、形、大きさなど視覚情報や五感に訴えるものを併用しながら、指導と適切な評価を行っていくことが、無理のない子どもの音楽的表現を育成するものだということができよう。学生に、「音楽を形づくっている要素について理解できましたか？」と質問したところ、54名 (57.4%) が理解できた、やや理解できたと回答し予想を下回った。今後はこの専門的事項についての教授に力を注ぎたい。

学生の感想からは「音楽に対して堅いイメージがあった私ですが、自由な創作活動につなげられると

知って印象が変わりました。」「とても授業が楽しかったです。音楽でも図工作があると学びました。」「今までは、ピアノの鍵盤をグーやパーやひじで押すことは良くないと考えていましたが、クラスター奏法などによって表現が大幅に広がることが分かりました。」「私たちが思う音楽と子どもが思う音楽は見方が違うのではないかと思います。」「短大での音楽＝ピアノという考えでいたけれど、他にも様々な音楽があり楽しめた。」など、音楽の新たな一面を発見したという内容が多く見られた。発表に対しても温かく受け入れ認める雰囲気を感じ、音楽活動はこうでなければならない、といった堅苦しいものではないことを学生たちに伝える努力をしたことが良い結果につながったと考えている。

## 5. 今後の展望と課題

新設された「子どもと表現（音楽）」という授業の目的は、領域「表現」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、乳幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につけることとされている。音楽の専門性はもちろん、音楽の学問的な内容を踏まえながら、感性教育の内容に触れることも目指した。座学だけでなく必ず実践を行うことを心がけたが、今後は子どもに対しても実習などを通して実際に音楽創作活動を行ってみる必要がある。

## 引用文献

- 1) 無藤隆代表 保育教諭養成課程研究会, 幼稚園教諭養成課程をどう構成するか～モデルカリキュラムに基づく提案～, 2017, 萌文書林
- 2) 木下由香, 保育者が行う器楽創作活動の実践, 2019, 日本学校音楽教育実践学会第24回全国大会自由研究8
- 3) 杉本久枝, 領域「表現」における感性についての考察—音楽・絵画造形における感性の捉え方の相違に着目して—, 2016, お茶の水女子大学子ども学研究紀要第4号
- 4) デジタル大辞典, 小学館
- 5) 大西華恵・新山王政和, 小学校音楽科における「創造性」に関する一考察, 2018, 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第3号
- 6) 元永定正, こころころ, 1982, 福音館書店
- 7) クルターク, 遊び I [ピアノのために], 1989, 全音楽譜出版

版社

- 8) 島崎篤子, 「保育音楽」の授業における絵かき歌, 2001, 岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要第11号
- 9) 井口太, 新・幼児の音楽教育 幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導, 2014, 朝日出版社

## 参考文献

1. 岡本信一, 音楽科教育における創造的思考に関する研究—音楽の解釈・表現を促すメタ認知の効果—, 1998, 日本教育方法学会紀要「教育方法学研究」第24巻
2. 中村三緒子, 幼稚園教育要領領域「表現」の変遷に関する考察—小学校学習指導要領の影響を通して—, 2017, 淑徳大学短期大学部研究紀要第57号
3. フィンケ, 小橋康章, 創造的認知, 2013, 森北出版